

ジェロントロジー（老年学）研究に関する助成の決定と ジェロントロジー研究報告No. 14の発行について

公益財団法人SOMPO福祉財団（理事長 二宮 雅也、以下「SOMPO福祉財団」）は、2020年度ジェロントロジー研究助成として、16件の対象者に合計約799万円の助成を決定しました。また前回（2018年度）の助成による研究成果を取り纏めた「ジェロントロジー研究報告No. 14」を発行します。

1. ジェロントロジー研究助成の概要

SOMPO福祉財団が実施しているジェロントロジー研究助成は、高齢者福祉の増進に資することを目的にジェロントロジーに関する社会科学・人文科学分野における研究に助成を行う事業です。今年度は、2020年4月から7月にかけて公募したところ、53件の応募があり、16件（1件50万円上限）の助成を決定しました。本助成は1993年から隔年で実施しており、昨年までの26年間で助成先は累計250件、助成額は合計約1.5億円となっています。

2. 助成金贈呈式の開催予定

例年行っておりました助成金の贈呈式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とさせていただきます。

3. 研究報告の発行

前回（2018年度）の助成による研究成果を「ジェロントロジー研究報告No. 14」（B5版・162ページ）として10月31日付で発行します。本報告書には15件の研究成果が収められており、高齢者の社会活動、介護者のスキルの向上など幅広い研究テーマを取り上げています。

< SOMPO福祉財団について >

SOMPO福祉財団は、損害保険ジャパン株式会社の出捐を受け、社会貢献活動の一翼を担う財団として設立された公益法人です。同財団の主な活動は本研究助成のほか、社会福祉・社会保険・損害保険の研究会や講演会の開催、わが国における優れた社会福祉学術文献の表彰（「SOMPO福祉財団賞」）およびこの受賞者による講演会・シンポジウムならびに介護福祉士養成のための奨学金の給付などを行っています。

2020年度 ジェロントロジー研究助成 対象者一覧

※共同研究の場合代表研究者

形態	対象者※	所属	研究テーマ
共同	越智 隆太	中央大学大学院文学研究科・大学院生	実験心理学的手法による“真の認知症当事者理解”に関する研究 -認知症介護者の心理的負担感の軽減を目指して-
共同	菊地 亜華里	大阪大学大学院人間科学研究科	エイジズムの生起要因とその年齢差に関する研究-Terror management theory と Social identity theory の枠組みに着目して -
単独	KIM Nahyun	神戸大学大学院・研究生	高齢者は、どのようなつながりを求め、どのようにつながりを形成していくのか。社会参加活動の場に参加する高齢者に焦点を当て、高齢期における新たな社会的つながりとしての弱い紐帯の可能性について追究する。
共同	小島 みさお	国際医療福祉大学大学院医療福祉学専攻・研究生	男性家族介護者の排泄介護負担と福祉用具利用に関する実態調査 -介護支援専門員、福祉用具専門相談員、男性家族介護者へのアンケートから-
共同	小松 亜弥音	国立長寿医療研究センター老年社会科学部社会福祉・地域包括ケア研究室流動研究員	日本の在宅要介護高齢者を対象とした縦断調査のデータを用いて二次分析を行い、介護に要介護高齢者の意向が反映されている程度と、その後の身体機能・心理状態や在宅生活継続との関連について検討する。
単独	税所 真也	東京大学高齢社会総合研究機構研究員兼東京大学大学院人文社会系研究科研究員	認知症高齢者が地域で最期まで暮らしていくために必要となる条件や要素について成年後見人による支援を切り口として描出する。とくに生活者の視点を重要視する NPO 法人や生活協同組合による支援を分析対象とする。
共同	櫻庭 唱子	千葉大学大学院・大学院生	高齢期における就労は要支援・要介護認定の発生を抑制するか -JAGES 2010-2016 コホートデータを用いた縦断研究-
共同	鈴木 みずえ	国立大学法人浜松医科大学医学部看護学科臨床看護学講座・教授	認知症高齢者は認知機能のレベルに合わせた支援を受けることで ACP を可能とすることを前提として、認知症高齢者の ACP をめざした意思決定支援尺度を開発し、信頼性・妥当性を検証する。
単独	瀬戸 ひろえ	大阪大学人間科学研究科・大学院生	シミュレーションアプリによる介入を用いたランダム比較化試験を行うことにより、日本人の高齢者が人生会議に対して抱く心理的障壁の構造を量的に分析するとともに、人生会議普及に向けた方策を検討する
共同	多賀 努	東京都健康長寿医療センター研究所・非常勤研究員	認知症とともに暮らせる社会（DFC）を実現するために、認知機能の低下した高齢者の「尊厳」に関する語りを多義的・行動論的に分析・類型化し、日常の生活場面における支援のしかたを実装する。
共同	中野 邦彦	島根大学地域包括ケア教育研究センター	コロナ下における中山間地域高齢者の行動様式の変容が健康に与える影響に関する研究
共同	西尾 美登里	日本赤十字九州国際看護大学	救援力とは、困ったことが起きた際、周囲に助けを求める行動と定義する。現在までの研究で、男性の家族介護者は救援力が低い事が明らかになった。今回は介護経験のない高齢者男性の救援力を調査する。
共同	長谷田 真帆	東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻健康教育・社会学分野・特任助教	高齢者の死亡までの療養場所の推移のパターンおよび費用とその関連要因を明らかにする。それにより社会的に不利な立場でも、最期まで住み慣れた場所で過ごすための示唆を得る。
単独	花里 陽子	獨協医科大学看護学部・教授	特別養護老人ホームにおける新人介護職の看取りの経験とその意味づけ
共同	平井 和明	帝京大学福岡医療技術学部看護学科・准教授	新しい生活様式下における、在宅高齢者のソーシャルフレイルの実態調査と、予防活動の一環として IoT 通信機器を活用した介入の効果測定
共同	吉村 舞	北海道大学大学院保健科学院	心不全患者と家族を対象とした在宅移行支援評価に関する研究 -患者と家族の当事者経験を基にした質評価指標の開発-

「ジェロントロジー研究報告 No. 14」掲載内容

※共同研究の場合代表研究者

形態	対象者※	所属	研究テーマ
単独	青木 由香	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・大学院生	中年期未婚子の介護と就業の両立-就業形態・介護態勢の異同をふまえた介護者支援策の検討-
単独	畦地 良平	日本大学大学院文学研究科心理学専攻・大学院生	介護職員のワークエンゲイジメントおよびバーンアウトの関連要因およびそのアウトカムについての研究
共同	五十嵐 歩	東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻・講師	地域高齢者支援におけるコンビニエンスストアとの協働を推進する研修プログラム活用の効果
共同	池田 恭敏	茨城県立医療大学・准教授	ドライブレコーダーを活用した参加型高齢ドライバー安全運転教育の効果
共同	石川 信仁	京都大学大学院医学研究科・大学院生	地域高齢者における予防的介入が要介護度の発生に及ぼす影響に関するコホート研究
共同	板倉 有紀	秋田大学・高齢者医療先端研究センター・特任講師	地域での認知症のケアサイクルにおける住民参加と行政保健師の専門性に関する社会的研究-秋田県内での社会実装のために-
共同	岡本 希	兵庫教育大学大学院・准教授	介護者の健康問題のリスク評価とナラティブ・アプローチに基づく介護負担感、自尊感情、睡眠の改善を目的とした介入研究
共同	佐久間 美里	名古屋大学大学院医学系研究科・大学院生	通所介護施設における認知症高齢者の行動・心理症状に関する実態調査
単独	佐藤 惟	東京福祉大学社会福祉学部・講師	地域の居場所におけるアドバンス・ケア・プランニング（人生会議）の可能性-高齢者と専門職による学びの場の創出に向けたアクションリサーチ-
単独	佐野 知世	順天堂大学保健看護学部・助教	認知症高齢者のBPSDの緩和過程の分析と迅速な緩和方法
共同	田淵 恵	中京大学心理学部・助教	乳幼児期の子どもの触れ合いが高齢者にもたらす心理的影響-「ケアされる立場」から「ケアをしたい気持ち」へ-
共同	藤田 小矢香	島根県立大学看護栄養学部看護学科・准教授	離島在住高齢者の認知機能と隠れ心不全の関連-軽度認知障害に隠れ心不全は原因となりうるか？-
単独	村山 陽	東京都健康長寿医療センター研究所・研究員	地域の世代間援助における互恵性に関する研究:都市部における世代間援助は、どのように持続しうるのか
共同	若林 和枝	国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科・講師	在宅認知症高齢者の福祉用具利用状況とリスクマネジメントのあり方-介護支援専門員と福祉用具専門相談員へのアンケート結果より-
共同	和氣 大成	埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック・助教	健常高齢者および軽度認知障害患者に対する発症前診断告知の影響-認知症の効果的な告知マニュアル作成に向けて-